
宗教団体に立ち向かえ

ぽっくる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宗教団体に立ち向かえ

【Nコード】

N1673G

【作者名】

ぽっくる

【あらすじ】

20XX年、サイカ教によって人々は操られていた。そんな中で2人の勇者が現れた。

勇者たち

20XX年、日本はある宗教団体、「サイカ教」が侵略しようとしていた。

その中でのリーダーは「C・S・サイカ」だった。サイカは日本の人々を洗脳していき、操っていた。

それから3年後、ある勇者が立ち上がった。

ニッチーとヤースであつた。

ニ「ここも、もうだめだな……」

ヤ「ひでー」

ナカタ村は人も多く住んでいたが、サイカに操られ、無理やり仕事をさせられていた。

ニ「やめろーーーーー!!」

ニッチーは叫んだ。そのとき、

「ドカーーン!!」

突然ビームが飛んできた。

ニ「誰だー!?」

？「オレはこの担当のコーガーだ。さっさとでていけ！」

ヤ「コーガー？そうか！お前はサイカの手下だな！」

コ「そのとうり！！さあ出て行け！出て行かなければ……………」
・・・殺す！」

ニ「誰が逃げるか！くらえ——！ニチYOビーム」
ニチヨウ

コーガーは余裕でかわした。

コ「そんなビームは通用しないなあ」

ニ「フフフフフ……後ろをみる——！」

ニチYOビームは曲がり戻ってきた。

コ「なに————！？……………うわああああ……………」

ヤ「いまだ——！イヌ射火パンチ——！」
イヌイカ

ヤ「スーのイヌ射火パンチは手が炎に包まれ、強烈なパンチだ。

コ「ギアアアアア——！く……………そ……………、サイカ様……………」
……………」

ドッカーン——！

ニ「これでこの人たちも元に戻るだろう……………何！！戻って

ない!!」

ヤ「どういうことだ!!……………そうか!!あの黒い塔を倒せば」

ニ「やってみるか、ビーム!!」

ドーン……………塔は倒れた。

民「う…………ん……………はっ!俺は今まで何をしていたんだ?」

民「なんだ、このめちゃくちゃな村は……………」

ニ「よかった。みんな戻ったぞ!　　あなたたちはDAITTIに操られていたんです。

でも、もう大丈夫ですYO!」

民「おおおお!ありがとうございます。DAITTIめ……………
・あ、村長」

この村の村長が出てきた。

村「ありがとうございます。お礼にごちそうを用意します。泊まっています。どうぞ」

ニ&ヤ「ありがとうございます」

こうして2人はここで一晩すごした……………。

謎の最強戦士

ナカタ村で一晩過ごした二人はコウミ村に向かっていた。

二「まだ着かないのか？もう1時間も歩いてるぞ？」

ヤ「お前の脳みそは犬以下か！？最初に言っただろ、2時間ばかりつてさあ〜」

二「そうだっけ？」

ヤ「もういいや……」

しばらく歩いていた。そのとき

二「おい！男の子が倒れているぞ！」

ヤ「おーい、大丈夫かあ〜？」

いくら声をかけても起きなかった。

二「コウミ村に急いで運ぶぞー！」

ヤ「よし、急ぐか！」

2人は急いでコウミ村へ運んだ。

1時間後・・・・・・・・

二「はあはあ・・・・・・・・、やっと着いた・・・・・・・・ここはサイカに操られていないのか？」

ヤ「そんなことより、早く病院に連れて行こう」

近くの病院に連れて行つた。

医「もう大丈夫です」

二「ありがとうございます」

医「そういえばナカタ村が2人の勇者によって助かったって聞いたんですが、

あなたたちですか？」

二「もう広まっていたんですね。はい、僕たちがそうです」

医「そうですか・・・・・・・・、それなら・・・・・・・・死んでいただきます」

ヤ「なに？」

医者は突然飛び掛ってきた。

ヤ「こいつらはもう操られていたのか・・・、ニッチー逃げるぞ
!!!」

ニ「だめだ!!入り口も囲まれている!」

ヤ「やばいな・・・・・・」

2人は絶体絶命だった。

医「うがー!」

医者はニッチーに向かって飛び掛ってきた。

ニ「もうだめだーーーー!」

医「う・・・グハア!」

突然医者は倒れた。

ヤ「なんだ?」

ニ「あ!誰がいるぞ」

そこには一人の男が立っていた。腰には普通より大きい剣があり、
髪は

長髪だった。

?「その程度ではこれから先やられるだけだ。ここから1時間ほど
歩いたとこに

クンツ村がある。そこに剣の達人がいる。そいつに会ったな」

そういつて男は姿を消した。

二「なんだったんだ・・・・・・・・」

ヤ「そんなことよりあの男の子を連れて逃げるぞ！」

2人は必死に逃げた。

二「黒い塔を破壊するぞ！」

ヤ「よっしゃー！イヌ射火パーンチ！」

ドッカーン！！塔は崩れていった。

二「これからどうする？」

ヤ「あいつの言ってたクンツ村に行くか？」

二「行ってみるか」

こうして2人は男の子を連れてクンツ村に行くことにした。

達人

2人は少年を抱えながらクンツ村に向かっていた。

二「いいかげん目を覚まさないかなあ？」

ヤ「クンツ村に着いたら病院へ行こう」

二「でも、またサイカに操られていないかな？」

ヤ「大丈夫、あそこには達人がいるって言ってただろ」

二「そうか・・・大丈夫だな！」

1時間後、クンツ村に着いた。

二「早くこの子を病院へ」

ヤ「あそこだ」

2人は病院へ行った。

医「大丈夫です。今日には目を覚ますでしょう」

二「あの・・・サイカはここにきましたか？」

医「ああ・・・来ましたね・・・でも、この村にいる剣の達

人がサイカを

追っ払ってくれましてね．．．．」

ヤ「達人の名前は？」

医「確か．．．．、ジャンスカ．．．．」

ニ「ジャンスカ．．．．どこに住んでいますか？」

医「ここから5分くらいまっすぐ行くと神社があります。その横に他の家より

少し大きい家があります。そこがジャンスカさんの家です」

ヤ「そうですか。ありがとうございました」

医「あの子供は私たちが見ていますから、明日来てください」

ヤ「はい」

2人は病院を出た。

5分後．．．．．

ニ「あつた！神社だ」

ヤ「名前は．．．．クンツ神社か．．．．」

ニ「あつた！うわゝゝ．．．大きい家だな」

ヤ「すいませ〜ん！ジャンスカさんいますか〜？」

シ〜ン．．．．．

ニ「あれ？いないのかな？」

ヤ「鍵が閉まってないぞ．．．まさか空き巣？」

ニ「行くぞ！」

ヤ「静かに．．．．」

ニ「あれ？だれもいない．．．」

ヤ「荒らされてもいない．．．．」

？「だれじゃああ？？」

ニ&ヤ「うわあああ！！」

ジャ「何だお前らは！出てけ！」

ニ「あ、待ってください。あなたはジャンスカさんですか？」

ジャ「そうだ！だからなんだ！？」

ヤ「僕たちはサイカを倒すために旅をしています。でも、今の力では勝てない．．．、

だから、剣の達人のジャンスカさんに特訓をしてもらおうと」

ジャ「うん……お前らの実力が知りたい。着いて来い！」

ジャンスカと2人はジャンスカの道場へ連れて来られた。

ジャ「あ、そういえばわしは剣の達人ではないぞ、何でもできるぞ」

二「え？でも、あの人が……」

「じゃあ、あの人のまさかそいつは髪が長くて剣がちょっと大きいのを持っている奴か？」

「や、そうですね……？知っているんですか？」

「じゃあー知っているよ。私がいっつの師匠なのだから」

二「&ヤ」「ええええええええええ！？」

ジャ「あいつは覚えるのが早くて1ヶ月でここを出て行ったぞ」

二「どうりで強いはずだ」

「ヤ、特訓は？」

「じゃ、一人ずつワシと戦い、一回でも触れればいいぞ」

二「なら、オレから行こう」

ニ「おりゃー！おらおらおらおらー！」

ジャ「なかなかやるじゃないか」

ニ「くらえ！ニチYOビーム！」

ジャ「なに！？くっ！」

ニ「かわされたか……」

ジャ「いや、合格じゃ」

ニチYOビームはジャンスカの服をかすっていた。

ニ「よっしゃー！」

ヤ「今度はオレだ！オリヤー」

ジャ「あ、まって休みたい」

ドカツ！

ジャ「グエツ！」

ヤ「あ………すいません」

ジャ「うつつ……仕方ない……合格………」

ヤ「………ヤッター………」

「じゃ、明日から修行じゃ」

「二&ヤ、はい!!」

こうして2人は修行をしていくことになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1673g/>

宗教団体に立ち向かえ

2011年1月18日15時15分発行